

道路利用者としての人の特性  
39回 自転車乗員の特性2

はじめに

これは、(一財)日本交通安全教育普及協会発行「交通安全教育」2019年12月号に掲載された標記記事の概要を紹介するものです。筆者は元科学警察研究所 交通科学部長 牧下 寛氏です。

今回は、記事の中から、自転車の通行位置と通行位置の選択行動についての研究結果を紹介します。

■ 自転車乗員の違反と交差点での自転車通行位置

警察庁によると、平成30年の自転車事故(第1・第2当事者)は85,641件で、事故類型別では「車両相互」が最も多く、中でも出会い頭衝突が43,232件(50.5%)と極めて多く、次いで左折時衝突が12,025件(14.0%)、右折時衝突が11,358件(13.3%)であった。

法令違反の種類別では、「安全運転義務違反」中、安全不確認が18,593件(21.7%)、動静不注視が10,974件(12.8%)であった。また、「交差点安全運行違反」は10,339件(12.1%)、「違反なし」は多く、30,077件(35.1%)であった。自転車乗車中に事故に遭わないためには、自分が違反しないだけでなく、相手車両が違反することも予測して走行する必要がある。

金子正洋氏らは「自転車事故発生状況の分析」(2009年土木技術資料)で、東京都内の幹線道路のうち152kmの区間を対象に、細街路と交わるすべての交差点で2002年～2005年の間に発生した自転車関連事故を調べた結果を発表した。この区間で4年間に発生した自転車関連事故は146件で、出会い頭事故が89件、左折時事故が40件、右折時事故が7件であった。

図1は、出会い頭事故89件のうち、細街路から交差点に進入しようとする自動車と幹線道路を走行中の自転車による事故79件を自転車の通行位置別に示したものである。右側通行の自転車による出会い頭事故の割合が大きいことが分かる。



図1 幹線道路と細街路の交差点における出会い頭事故

図2は左折時事故40件のうち幹線道路から細街路へ左折しようとする自動車と幹線道路を走行中の自転車による事故26件を、自転車の通行位置別に示したものである。左折しようとするドライバーから見て左後方から走行してきた自転車との事故発生割合が大きいことが分かる。



図2 幹線道路と細街路の交差点における左折時事故

細街路から交差点に進入しようとする自動車と、幹線道路の歩道を右側通行で走行してきた自転車との衝突が多数起きていた状況を見ると、自動車は一時停止せず減速だけで交差点に進入した場合が多く、自転車も交差点で歩道が途切れる場所に来ても減速しないで走行していた場合が多い。見通しの悪い場所での安全確認を怠るべきではない。ドライバーは右から来る自動車に注意が傾きがちであり、右側通行の自転車は見落とされやすい。自動車が左折していた時の事故に関しては、ドライバーが歩道を走行している自転車に気付かない場合が多い。左側通行の自転車乗員も右後方から近付いてくる自動車に気付くのは難しく、意識して振り返る必要がある。また、両者とも気付いていたのに、相手が止まるだろうと過信して事故になることが多い。左折車が止まるべきだとしても、自転車乗員は自分の身を守るための行動をすべきである。

### ■ 通行位置の選択行動

前述のように、右側・左側通行などの自転車の通行位置は事故の発生に大きく関係している。図3は横関俊也氏らが著した「観測調査からみた自転車利用者の通行位置・進行方向の選択傾向に関する分析」(2015年土木学会論文集D3)によるもので、様々な沿道タイプの道路で自転車の通行位置を観測して得られた5,555のサンプルを整理した結果である。右側通行の割合が5割前後の場所は、歩道、歩道に設けられた普通自転車通行指定部分、自転車歩行者道、自転車道であった。車道と物理的に分離され、車の走行を気にしないで通行できる場合は、左側・右側を自由に選択していると考えられる。歩道なしの車道より歩道ありの車道の方が右側通行が多いのは、右側通行で歩道を通行していた自転車が、歩行者を避ける場合に車道に降りることがあるためだと考察されている。車道に降りたり、歩道に上がったりを繰り返す場合、自転車にとって右側通行は都合がいいと考えられている。右側通行で車道に降りる場合は、自動車に対面しているので、後ろを向かなくても安全が確認できると考えている。

自転車が歩道通行する際には車道寄りの部分を走行しなければならないが、筆者の観察では、広い歩道を走行するとき、自転車は図4のように歩道の中で左側通行をする傾向が見られた。このため、右側通行で歩道を走行している自転車は車道寄りを通行するが、左側通行で歩道をしている自転車は民地寄りを通行しがちであった。特に歩道の中央付近に白線が引かれているだけで色分けがない場合、自転車乗員は白線を車道の中央線のように意識する傾向があると考えられる。

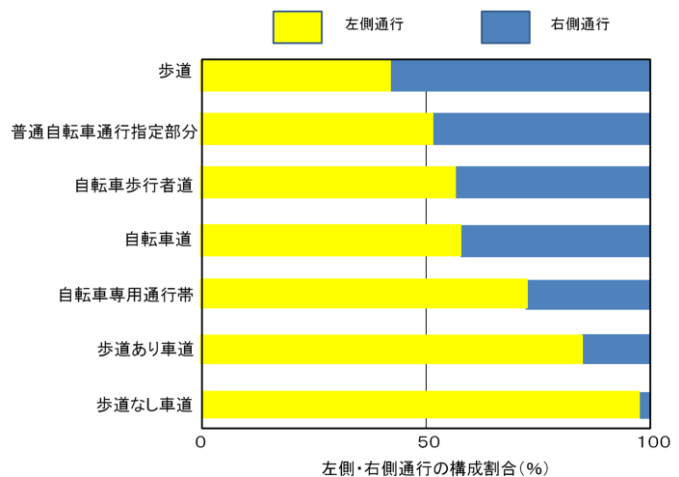


図3 通行場所別の左側・右側通行の構成割合(%)

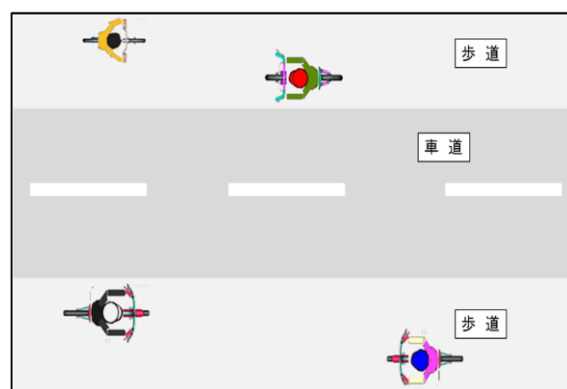


図4 歩道上での自転車の走行方向の傾向

以上